

名古屋駅前会場

[学生によるSDGsグローバル対談] 開催



UNESCO

75 YEARS OF JAPAN
IN UNESCO

日本のユネスコ加盟75周年

パレスチナを知る。

探究するユネスコ学習会

学生のフェアトレード探究と
戦場ジャーナリスト須賀川拓氏との対話

2011年にユネスコ加盟国となったパレスチナ。学生によるフェアトレード等の支援活動の成果と課題、須賀川氏の取材経験、そしてオンラインで結ぶ **UNRWA保健局長・清田明宏氏** の話から、平和のためにできることを高校生・専門家・市民が対話を通して考えます。



SPEAKER

講師 / 戦場ジャーナリスト

須賀川 拓 さん
HIROSHI SUKAGAWA

- 元 JNN 中東支局長
ガザ、ウクライナ、アフガニスタンなどを取材
- 2022年 ボーン・上田記念国際記者賞 受賞
- ドキュメンタリー映画『戦場記者』監督

2026

10.22

木曜日 THU

13:10 - 15:00

会場 名古屋経済大学 名駅サテライトキャンパス 10階ホール

〒名古屋市中村区名駅4-25-13

参加申込



forms.cloud.microsoft/r/JRWYWmzpsw

PROGRAM プログラム

13:10

現地からの挨拶

専門家 / 学生 / 関係者

13:15

ユネスコ委員会・

ユネスコゼミ

協働探究活動

13:35

講義と

専門家との対話

14:50

振り返り

主催 市邨学園 名古屋経済大学国際交流センター ユネスコESD推進室

共催 市邨学園 名古屋経済大学市邨高等学校 ユネスコ平和教育推進部

後援 ACCU (申請中)

問合せ 名古屋経済大学市邨高等学校 ユネスコ平和教育推進部 主任教諭 松野 至 052-721-0161

名古屋経済大学国際交流センター ユネスコESD推進室 特任講師 松野 至 0568-67-0511



@ICHIMURA_UNESCO_ACTIVITIES

「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」 ― ユネスコ憲章前文
本事業は、このユネスコ憲章の理念を、学生の探究、現地との対話、継続的な学校支援、地域社会への発信を通して実践する一般公開の学習会です。

当日のプログラム

13:10 開会・現地からの挨拶・趣旨説明
学生及び関係者から、カンボジアとパレスチナにおける学校支援の歩みと、本学習会の目的をお伝えします。

13:15 高校生による探究発表
「学校支援から生まれた学びと問い」

ユネスコ活動に取り組む高校生が、継続してきた国際支援と探究ESD活動について報告します。
・カンボジアにおける学校・教育環境支援と現地交流、中東の難民女性の自立を支えるフェアトレード
・UNRWAを通じたパレスチナ難民の子どもたちへの教育・学校支援
・現地の人々との対話から得た学びと、活動を通して生まれた問い
・支援の成果だけでなく、活動の中で直面した課題や、これから高校生に何ができるのかを発表します。

13:35 須賀川拓氏特別講義・学生との公開対談
「報道と人道支援の現場から考えるパレスチナ」

戦地や紛争地域取材してきたジャーナリストの須賀川拓氏と、長年にわたりパレスチナ難民への人道支援に携わるUNRWA保健局長・清田明宏氏をオンラインで結びます。

国際報道と人道支援、それぞれの現場から見たパレスチナについて世界の平和に貢献する専門家から学び、高校生が探究活動から生まれた問いを専門家に投げかけます。会場の皆様からの質問も交えながら、現地の人々の暮らし、子どもたちの学ぶ権利、現地の情報を受け取る私たちの姿勢、平和のためにできることを考えます。

ナビゲーター 市邨学園 名古屋経済大学国際交流センター ユネスコESD推進室 特任講師 松野 至
司会・進行 市邨学園 名古屋経済大学市邨高等学校 学生ユネスコ委員会委員長 佐藤さん 副委員長 川瀬さん 松井さん
市邨学園 名古屋経済大学 学生 ユネスコSDGsサークル代表 水野さん

14:50 学びの共有・登壇者からのメッセージ
学生と会場参加者が、対話を通して感じたことや、これから取り組みたいことを共有し、登壇者から未来へのメッセージをいただきます。

15:00 閉会
※進行時刻及び内容は、当日の状況により変更する場合があります。

本事業が目指すもの
パレスチナを遠い地域の問題として捉えるのではなく、現地の人々の声、国際報道、人道支援、高校生の探究活動を結び付けて学びます。
ユネスコ憲章は、**互いの暮らしや文化を知らないことが、人々の間に疑惑と不信を生む原因となる**ことを指摘しています。そして、永続する平和は、政治的・経済的な取り決めだけでなく、「**人類の知的及び精神的連帯**」の上に築かなければならないとしています。

異なる立場や経験を尊重し、**当事者の声に耳を傾け、対話を通して多面的に理解すること**。それによって、学生一人ひとりの心の中に「平和のとりで」を築き、学びを平和のための行動へつなげることが、本事業の目的です。

なぜ、ユネスコ事業として実施するのか
日本は1951年7月2日にユネスコへ加盟し、2026年に加盟75周年を迎えました。日本の加盟は、戦後の国際社会への復帰を象徴する重要な一歩と位置付けられています。また、パレスチナは2011年からユネスコ加盟国となっています。

ユネスコは、教育・科学・文化を通じた国際協力によって、平和と人類の福祉に貢献することを目的としています。

本事業では、紛争だけに焦点を当てるのではなく、パレスチナの歴史、文化、教育、人々の日常にも目を向けます。高校生、大学、国際機関、報道関係者、専門家、市民を結び、学校での学びを地域社会に開くことで、世代や立場を越えた相互理解を促進し、ユネスコ活動の担い手を育てます。

継続する学校支援と国際協働
市邨学園名古屋経済大学市邨高等学校と名古屋経済大学は、カンボジアにおける学校・教育環境支援とともに、UNRWAを通じたパレスチナ難民の子どもたちへの教育・学校支援を継続しています。また、名古屋経済大学は、ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）にオブザーバーとして参画しています。
私たちが目指すのは、募金や物資の提供だけで完結する支援ではありません。現地の人々との対話、高校生・大学生による探究、国境を越えた学校間交流、専門家との学習、地域社会への発信を組み合わせ、「支援する側」と「支援される側」という固定的な関係を越えて、互いの文化、経験、知識から学び合う国際協働を進めます。

文部科学省「EDU-Portニッポン」採択事業
本事業は、文部科学省「令和8年度 日本型教育の海外展開（EDU-Portニッポン）応援プロジェクト」に採択された、学校法人市邨学園名古屋経済大学ユネスコESD推進室による「対話と交流による、国際協働支援探究活動～心を育むESDモデル～」の一環として実施します。※eduport.mext.go.jp

海外（台湾・韓国・ヨルダン・エジプト）との協働から得た学びを日本の学校教育と地域社会へ還元するとともに、一方向の教育支援ではなく、相手の文化や教育実践を尊重した水平的・双方向的な学びを大切にします。学生が世界の課題を自分自身に関わる問題として捉え、対話し、考え、行動する力を育むESDの実践として、持続可能で平和な社会の形成に貢献します。
※本事業は予告なく変更となる場合があります